

論理的思考能力について

基礎編

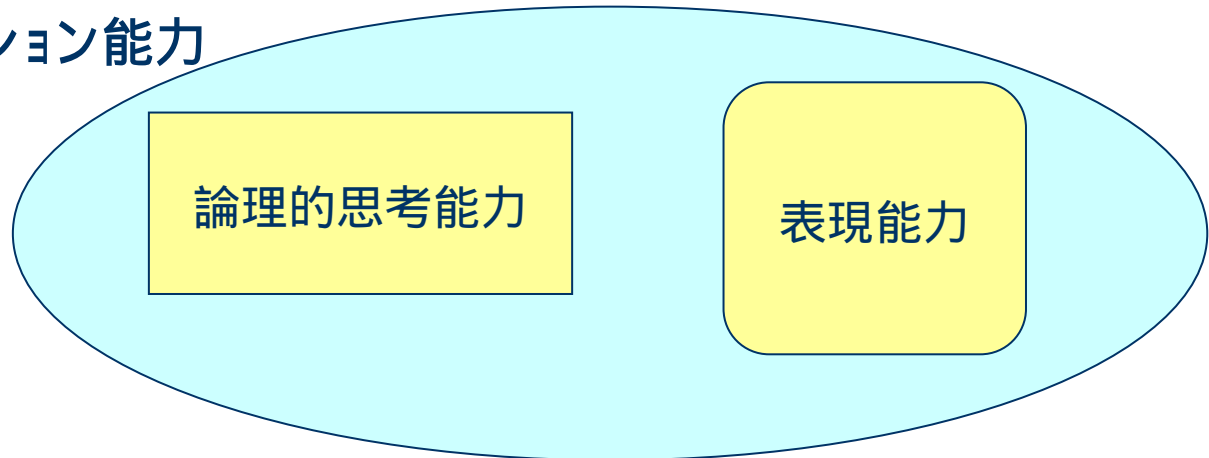


講義の主旨

- 「論理的にモノを考える」とは、どういうことなのかを理解する
- 「論理的」であるための条件を理解する

なぜ論理的にものを考える必要があるのか？

- 論理性とは「他者」を前提とした概念
- 論理的にものを「考える」
= 論理的にものごとを「他者」に伝える
- 意思疎通(コミュニケーション)の一形態
コミュニケーション能力



「論理的にものを考えること」

コミュニケーション能力 = 論理的思考能力 + 表現能力

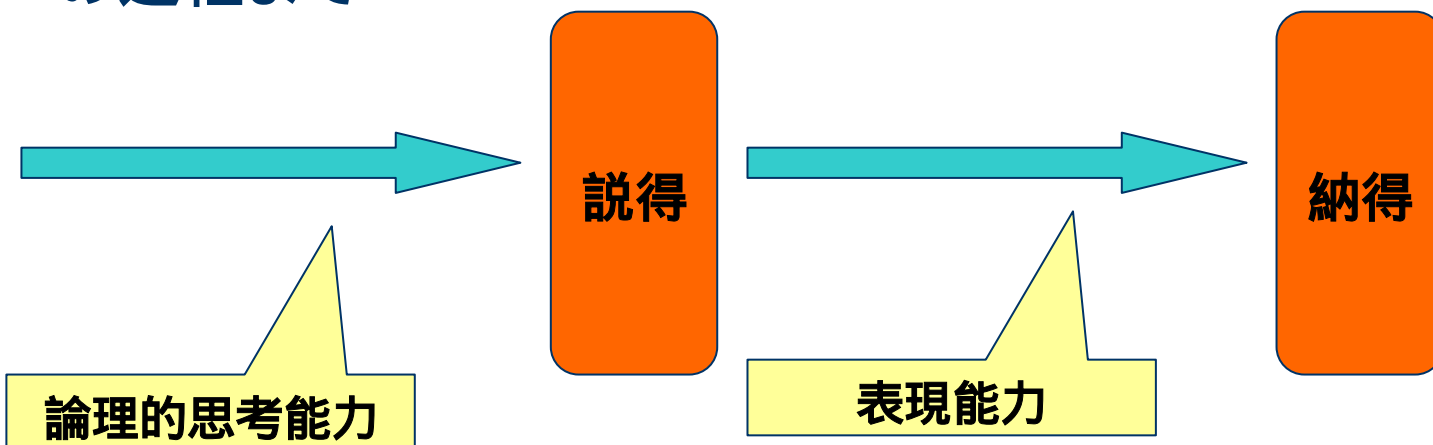
- 英語 : communication = ラテン語 : communis
(common, public, 共通の) communio (交わり,
comm 共に unio 一致) + munitare (舗装する, 通行可
能にする)
- 自己と他者の意思疎通を円滑にする能力
= コミュニケーション能力

コミュニケーション能力

- 論理的思考能力
- 表現能力
 - ・言葉を用いるもの
修辞・レトリックなど
 - ・言葉を用いないもの
デリバリー(身振り、手振り)

論理的思考能力と表現能力の関係

- 説得・・・相手(自分)の言ってることを理解する(理解してもらう)
- 納得・・・理解した上で同意する(同意してもらう)
- * 学術的な場面(社会科学)で用いられるのは主として「説得」の過程まで



「論理的である」とはどういうことか？

- 論理的であるとは、「客観的で筋道だった説明」を意味します。
- 客観的とは：誰が聞いても分かること（実際には不特定多数の人間が聞いても）
- 筋道だった：物事を順序だてて説明すること（例：因果関係など）
- 説明：他者を説得するための行為

論理的であることの条件

- 理由付け (Reasoning)

特定の主張に対する根拠

- 比較 (Comparison)

特定の主張が他の主張に優越する理由

- 一貫性 (Consistency)

特定の主張は一貫していなければなりません

【唯一性 (Uniqueness)】

結論Aを満たす条件が複数ある場合に、他の条件に比べてそれが有意となる理由

演繹法と帰納法

- 演繹法 (deduction) = 一般的前提から個別の結論を導く
- 帰納法 (reduction) = 複数の事実から一般的結論を導く

演繹法の例

- 大前提: 人間はいつか死ぬ
- 小前提: ソクラテスは人間である
- 結論: ソクラテスはいつか死ぬ

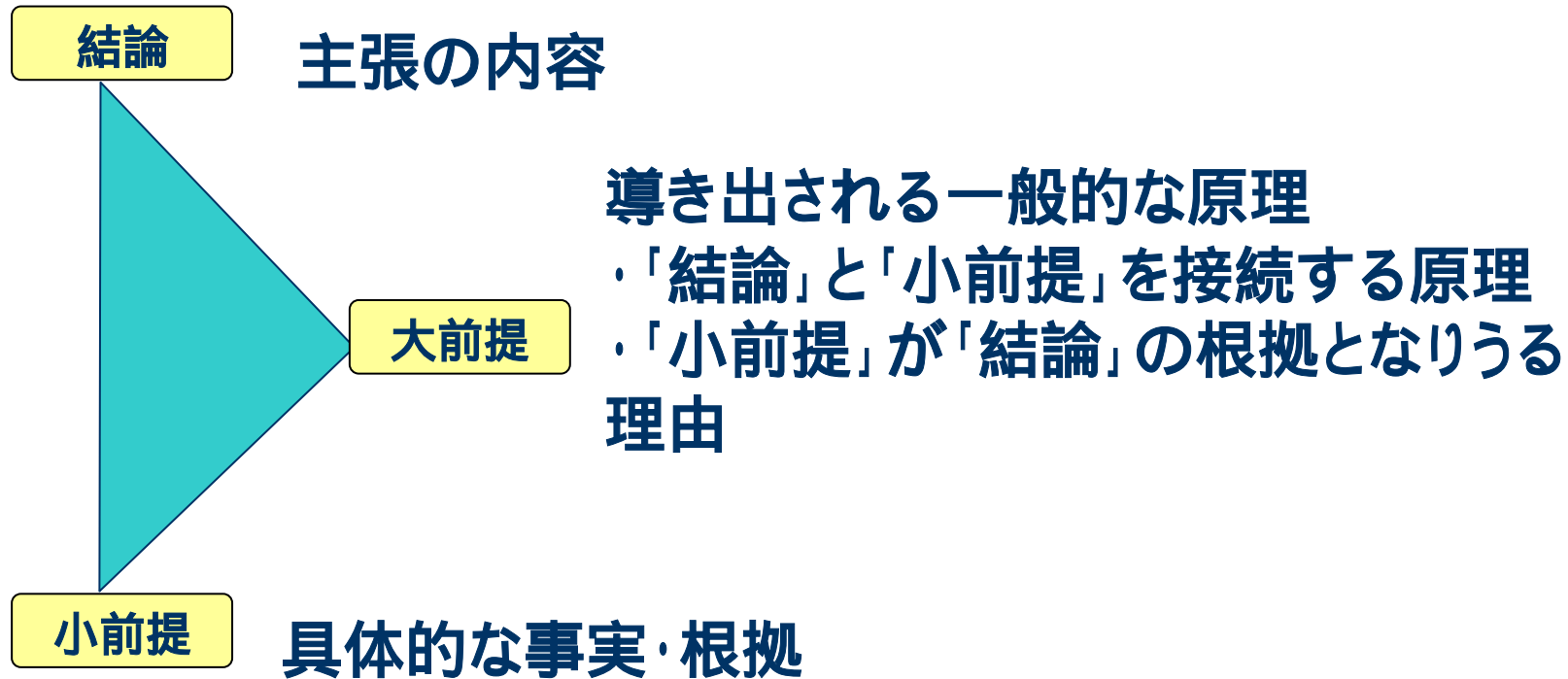
帰納法の例

- 事実 ソクラテスは死んだ
- 事実 プラトンは死んだ
- 事実 アリストテレスは死んだ

(ソクラテス・プラトン・アリストテレスは皆、人間である)

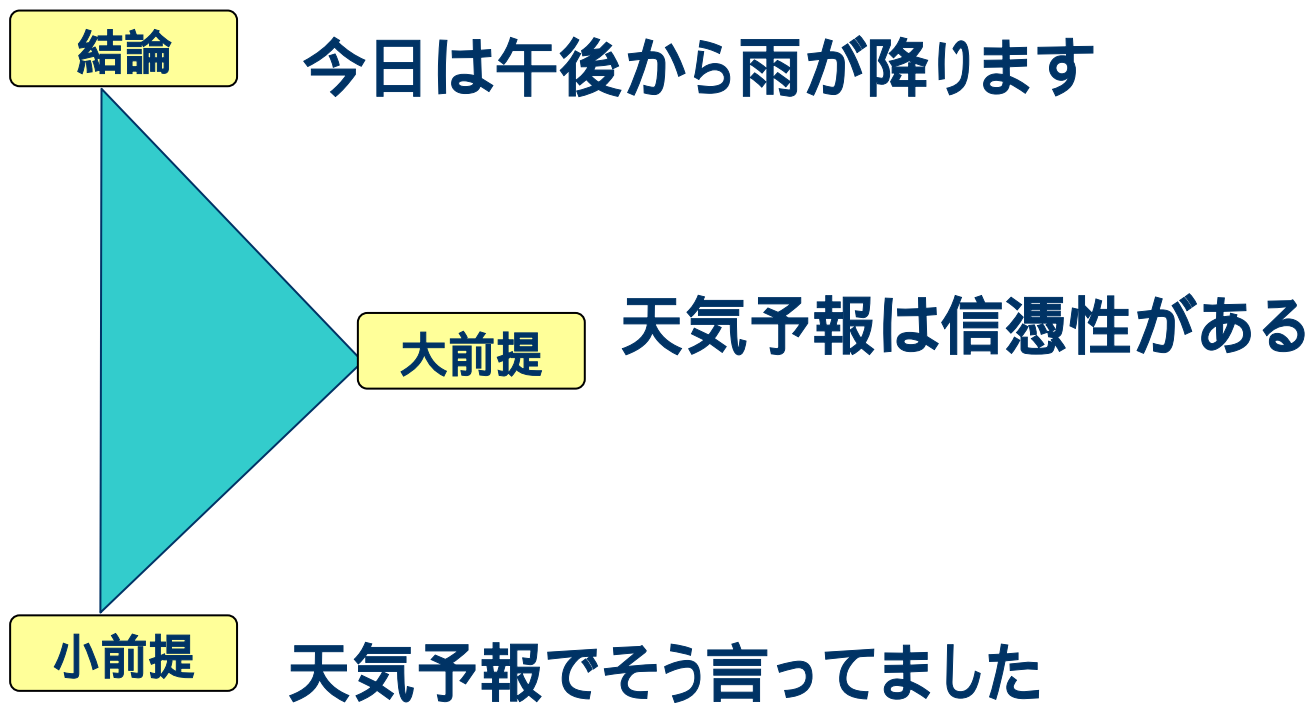
- 結論 = 人はいつか死ぬ

ロジックの三角形 (演繹法: アリストテレスの三段論法)



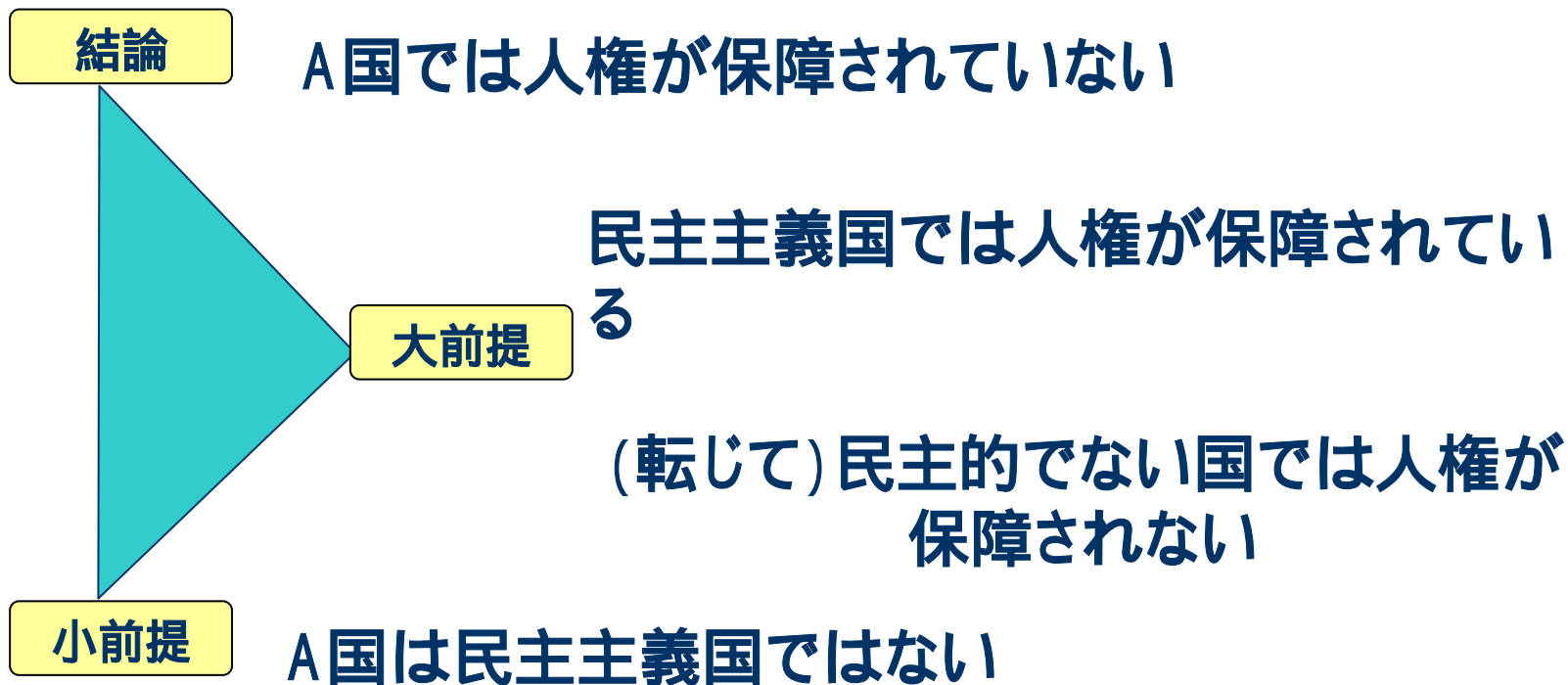
具体例

根拠の前提



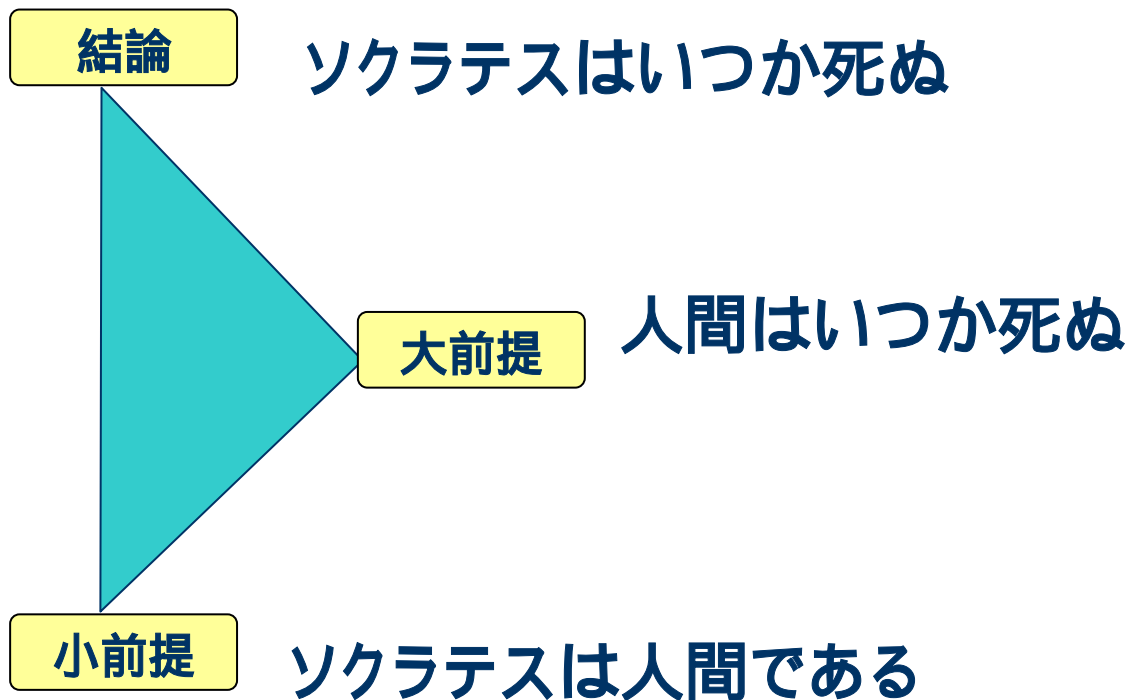
具体例

根拠の転換

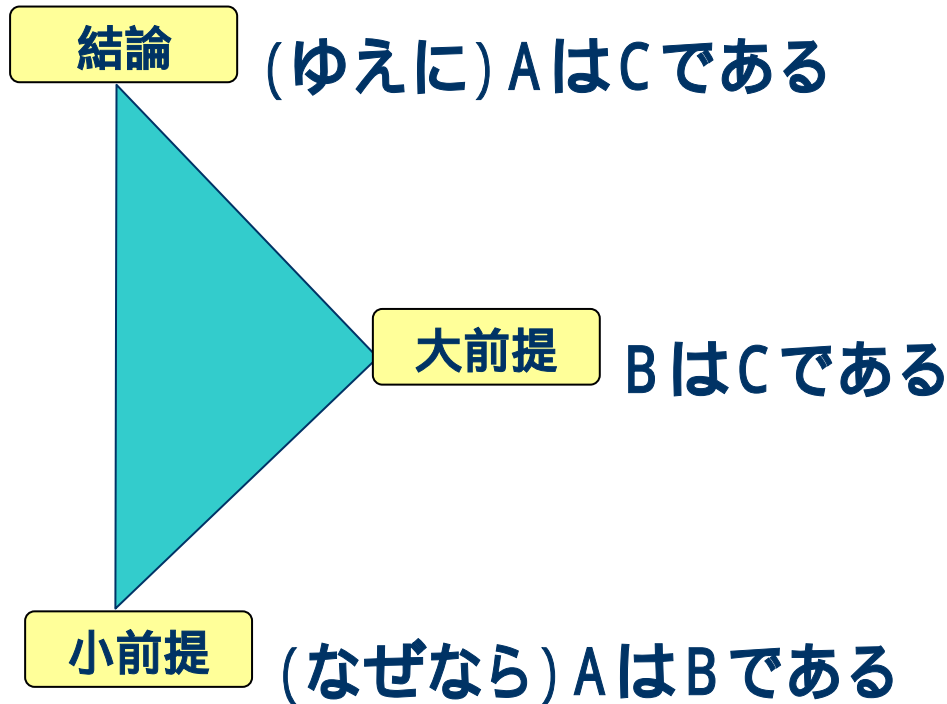


具体例

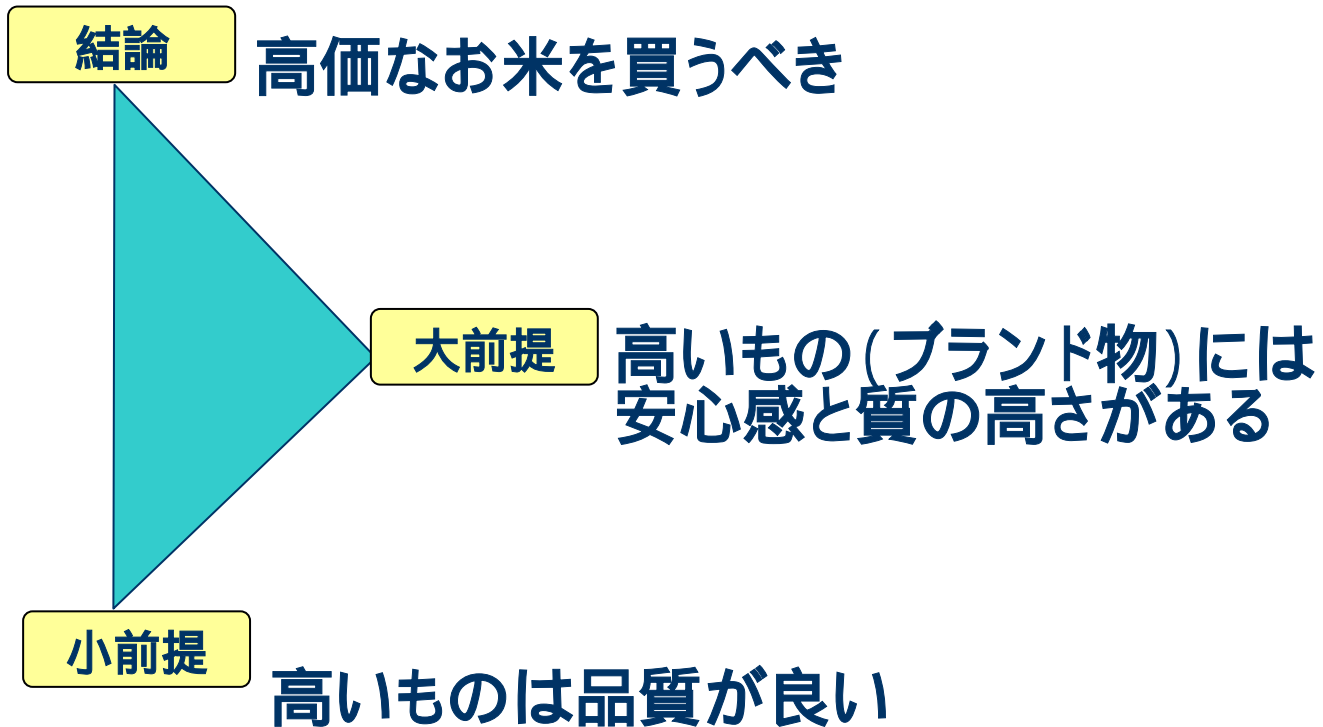
根拠の一般化



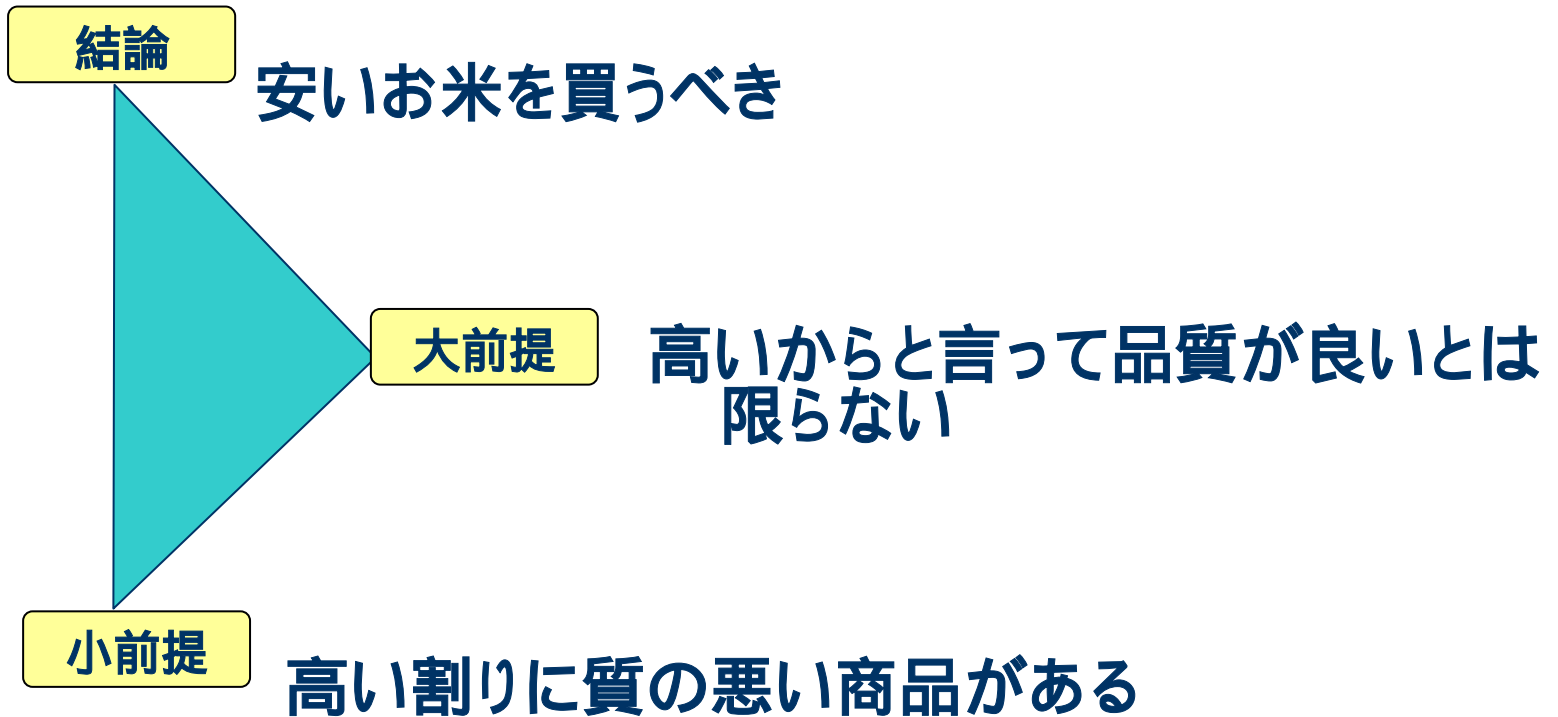
三段論法 = 三つの命題からなる推論形式



(ビデオ) セレブの場合



(ビデオ) 庶民の場合



論点の整理

結論

高いものは品質が良い

反論

高くても質の悪いものがある

反論

値段以外にも価値基準がある(思い入れ)

直接的な反駁:相手の根拠を直接反論

間接的な反駁:別の理由を提示して反論

- 直接的な反論 間接的な反論
- 直接的な反論を先に行なわないと、その議論が正しいかどうか検証できないから

直接的な反論の提示(相手の根拠付けの検証)

間接的な反論の提示(他の根拠付けの検証)

両者の根拠の比較